



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
愛知県支部

広報誌

日赤あいち

No.
136
2018.秋



共に助け合う地域を目指して

- 国内災害救護活動の様子
- 青少年赤十字事業
- 親子で楽しめるイベント
- 水の事故への備え

蟹江町赤十字奉仕団

半田市赤十字奉仕団

今号の奉仕団 半田市赤十字奉仕団

委員長 山田 房江



上/半田市赤十字奉仕団のメンバー
下/炊き出し体験の準備を行う様子



月曜と木曜の午前中、半田市立半田病院の「院内ボランティア」を行っています。分団ごとに当番制とし、2人体制が基本。入院患者さんの手荷物の手助けや、車から車椅子への移動介助、受付までの操作補助等を行っています。

赤十字奉仕団
ボランティア
リレー

ボランティアとして
活躍する奉仕団が
リレー方式で登場

市立病院で
入院患者さんを手助け
こんな活動をしています

日本赤十字豊田看護大学青年奉仕団

豊田市赤十字奉仕団

イチオシポイント
出前講座

今年度、少子高齢社会を背景に、「幼児、親世代の介護の方法」や「防災減災に繋がる救急法」をテーマに、市内各地域で行いました。多くのノウハウを持つ奉仕団員の知識を伝えること、活動内容に興味を持ってもらうこと、団員の士気向上などを目的に行っていますが、興味をわいて団員になる人が増えるという思いがあります。地元で活動することの意義や、実践できる知識を増やすことを意識しており、参加者にアンケートを取るなど、さらなる充実に努めています。

名古屋学芸大学青年赤十字奉仕団

日進市赤十字奉仕団

岡崎市赤十字奉仕団



活動資金

ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- アサヒペーパー株式会社 様
- ホッコー株式会社 様
- 株式会社八神製作所 様
- 中西電機工業株式会社 様
- 明菱サービス株式会社 様
- 日本パッキング株式会社 様
- 株式会社パロマ 様

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

郵便振替口座/00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部

郵便局備え付けの払込取扱票でお手続きください。ご不明な点は日本赤十字社愛知県支部事務局 企画振興部赤十字会員課まで。

TEL 052-971-1596 (直通)

ご協力をお願いいたします



PRESENT プレゼント

ブクブクアワー3点セット

(株)ヘルスカンパニー様提供の
ブクブク泡立つ入浴剤



応募先

●MAIL aichi-koho@aichi.jrc.or.jp

●FAX 052-971-1590

●郵送 〒461-8561 名古屋市中区東区白壁1-50 日本赤十字社愛知県支部「日赤あいちプレゼント」係

【明記事項】

- ①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
- ④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先 ⑥ご意見・ご感想など 締切/11月30日必着



日本赤十字社 愛知県支部
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市中区東区白壁1-50 TEL 052-971-1591 (代表)
発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/平成30年10月1日



活動の詳細や最新情報は
ウェブサイトやツイッターへ

日赤愛知
www.aichi.jrc.or.jp



クロス サポーターに

Interview

聞く!!

No.
26

ヘルスカンパニーグループ
代表 松田 尚子さん

活動内容
浴用化粧品の研究と開発を50年以上行う中で、2011年から自社商品を使った乳がん早期発見の啓蒙活動をスタート。売上金の一部を活動資金として寄付している。
https://www.health-c.com/



命を救うピンクリボン運動と
赤十字活動の支援を続けていきます

赤十字とのつながりは
病院から

赤十字が災害救護をはじめとした様々な事業を行い、苦しむ人々を救う活動を行っているのは知っていたという松田さん。自身の赤十字との付き合いは病院からでした。「子どもを連れて駆け込んだり、子どもはしがが移って自分だけが入院したり。何かあれば赤十字病院に行けば大丈夫という安心感がありました」と話します。

家族や自身の闘病では、赤十字病院の看護師の言葉に元気づけられ、勇気が出たそうです。

赤十字と同じく
命を救う活動を

松田さんが代表を務めるヘルスカンパニーは、ボディケア・ヘアケアなどの浴用化粧品の研究開発を行っています。「赤十字と同じ命を救う活動を、自分の

会社としても取り組んでいきたいと思い始めたのが、乳がんの啓蒙活動です」

乳がんの啓蒙活動を始め、きつかけとなったのは、特に乳がんが早期発見によって治癒確率が高くなることを知ったこと。自身の会社でも多くの女性社員が働いており、社員にも乳がんのことを知ってもらいたいという気持ちもありました。

2011年に乳がんの早期発見を啓蒙する活動の1つとしてボディソープを制作。人工乳房を製作・販売している会社と協力し、自社製品を用いて人工乳房に影響がないか独自の試験を行い、安心して使える入浴剤を販売しています。

また今年は10月のピンクリボン月間に合わせて「日本列島しあわせピンクバスプロジェクト」を実施。ピンク色に染まる入浴剤を全国の入浴施設で使ってもらい、乳がん早期発見

の啓蒙活動を行います。これらの活動の売り上げの一部を赤十字に寄付することで、赤十字の命を救う活動も支えていければと考えています」

松田さんは、女性だけでなく男性にも乳がんの危険性を知ってもらい、全国平均を下回る愛知県の乳がん検診受診率が、少しでも向上してほしいと願っています。

命と真摯に向き合う
赤十字活動に期待

「赤十字の活動は、命と真摯に向き合うものだと思っています。苦しむ人を救う赤十字の活動に今後も期待しています」と松田さん。赤十字のCSR活動を通じて地域づくりを推進し、新たなニーズに応えることに期待を寄せます。

同時に自社でもピンクリボン運動を継続し、一人でも多くの命を救っていく考えを示してくれました。



1/社員一丸となって取り組みます
2/天然生薬の入浴剤など様々な自社製品が並んでいます
3/ピンクバスプロジェクトの協力企業の社長と握手を交わす松田さん



写真が動き出す!?
スマホで動画をご覧ください!

動画の視聴方法

- 右の二次元コードからFramerアプリをダウンロードして起動
- マークがついた写真にスマホをかざすと、スキャン後動画が始まります



2018年夏、青少年赤十字の取り組み紹介

未来を担う子どもたちが、
様々な赤十字運動に参加

リーダーシップの育成、国際交流などを行う青少年赤十字では、今年の夏休みも様々な活動を行いました。

8月9、10日は名古屋市地区のリーダーシップトレーニングセンターを実施。27名の小中学生が参加し、車いす

体験や視覚障がい者体験などに懸命に取り組めました。国際交流の時間には、プロフットサルチーム、名古屋オーシャンズのベビータ選手が登場。子どもたちから多くの質問が飛びました。

平成19年から行っているモンゴル赤十字との交流。今年はモンゴルの青少年赤十字メンバーが来日。日本の子どもたちと一緒に日本文化を体験したり、

互いの文化や赤十字活動を発表し合いました。

さらに、7月31日～8月2日には青少年赤十字加盟校の高校生が、県内の献血ルームで献血を呼びかけました。人通りの多いところでは緊張気味の生徒もいましたが、手作りの看板をもって献血の大切さを広くPRしてくれました。



左／特別ゲストのベビータ選手
中／モンゴルの子どもたちと一緒に貴重な体験ができました
右／名古屋駅地下街や大須商店街などで献血の呼びかけを実施

親子で赤十字にふれてもらえるイベントを開催

夏ならではのイベントを
親子で楽しく体験

愛知県内の赤十字施設において、親子で楽しめるイベントを開催しました。

名古屋市昭和区の名古屋第二赤十字病院では、夏休み特別企画として病院見学ツアー「八事日赤子ども探検隊」を実施。検査室やICU、院長室などを探検した後は、研修医や看護師とのお話会で、日頃聞けない貴重な話を聞きました。「貴重な体験ができて、ますますお医者さんになりたいと思った」という嬉しい声が上がりました。

瀬戸市にある愛知県赤十字血液センターでは、「夏フェス2018」を開催。ステージイベントや赤十字救護活動パネル展、スタンプラリーなどの企画が目白押しで、多くの来場者が家族で楽しめました。また、ステージイベントのひとつとして、近隣の高校や大学の和太鼓部や吹奏楽部の演奏が行われ、多くの聴衆が聞き入る様子が見られました。



左／初めて見る手術器具にドキドキ
右／愛知県立瀬戸北総合高校と太鼓部の演奏の様子

水の事故への備え

夏の事故を
少しでも減らしたい

夏になると増える川や海での水の事故に備え、親子で学べる講習会を開催。常滑市で開催された「赤十字親子レスキュー」には14組34名の親子が参加し、着衣泳やレスキューボードに乗る体験などが行われました。

岡崎市民プールでの「パパママちゃんじ教室」では、岡崎市赤十字奉仕団協力の下、ライフジャケットやベクトボトルを使った浮き方、乳幼児の心肺蘇生やAED講習を実施。多くの親子連れが体験しました。



「赤十字親子レスキュー」は、常滑りんくうビーチで実施



6.7.8／9月15日半田市で実施した「地域のための防災・減災訓練」の様子



0班が登録されています。救護班は、医師や看護師、事務職などから編成され、現在登録されている救護員は約9千人。職種の垣根を超えたオール赤十字で、発災直後から復興まで被災者に寄り添った支援を行うのが、赤十字の災害救護活動の特徴です。

**平時における
防災・減災の取り組み**

日本赤十字社愛知県支部は平成28年から、地域の自助・共助の力を高めることを目的に「地域のための防災・減災訓練」を実施しており、今年は9月15日(土)に半田市で開催しました。

医療救護実働訓練では、名古屋第一赤十字病院と名古屋第二赤十字病院から救護班を1班ずつ派遣し、地元の半田市立半田病院の医療チーム(DMAT)や地元の消防、警察などの関係機関と、南海トラフ地震を想定した医療救護実働訓練を実施。災害時における関係機関との連携を確認しました。また、多くの地域住民が救急法などの講習や赤十字奉仕団による炊き出し体験に参加し、災害への備えについて学んでいた機会となりました。

被災者を支える2つの支援

義援金

日本赤十字社にお寄せいただいた「義援金」は、被災地に設置される義援金配分委員会に全額送金され、同委員会が定める配分基準に従って被災者へ届けられます。義援金は、国や自治体が行う復旧事業や日赤の災害救護活動に使われることは一切ありません。

活動資金

日本赤十字社の活動は、会員の皆さまからいただく資金(会費)や寄付で支えられています。災害で被災した人々への医療救援や物資などの支援、復興支援のほか、子ども達への防災教育、応急手当の知識や技術の普及活動は「活動資金」のもとに行っています。



活動資金の主な使われ方

- 災害時の救護活動とための備え
(医療資機材や車両の購入、訓練ほか)
- 配布する救援物資(緊急セットや安眠セットなど)の備蓄
- 炊き出しなどボランティア活動の支援
- 青少年への防災教育
- 海外災害時の緊急救援活動、紛争地の医療支援、途上国への開発支援など
- 救急法や幼児安全法の講習
- 赤十字理念の普及 など

被災地に寄り添って

“オール赤十字”で
災害に挑む被災地では医療救護活動や
こころのケア活動を

今年7月、西日本に大きな被害をもたらした平成30年7月豪雨災害。長時間の豪雨は広域にわたって甚大な被害をもたらし、さらには過酷な猛暑が復旧を妨げ、多くの避難者が困難な状況下に置かれました。

日本赤十字社は、特に被害の大きかった岡山県や広島県を中心に、全国から救護班を派遣し、医療救護活動やこころのケア活動を実施。被災地では、青少年赤十字メンバーが募金活動をしたり防災ボランティアが救援物資の積み込みを行ったりと、多くの赤十字ボランティアが活躍しました。



1／名古屋第二赤十字病院の救護班、出発式にて
2／広島県支部職員から避難所の状況等を引き継ぐ救護班のメンバー
3／広島県坂町小瀬浦小にて救護所を開設し、医療救護活動を行う
4／倉敷市ボランティアセンターで活動する赤十字防災ボランティア
5／7月8日、被災地までの陸路が閉ざされているため、地元漁師の協力で、船での上陸作戦に臨む

